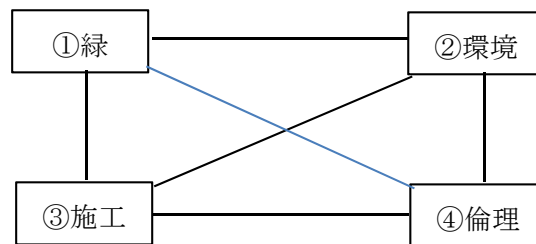


1. 緑地環境施工法 はじめのキーワードから

全部で15回の講義には、関連キーワードが沢山出てきます。

はじめに講義の軸となる4つのキーワードの関連性について考えてみます。



また本講義の中に職業倫理が組み込まれます。

よって、これらの関連性を具体的な事例でまず考えることにします。

①緑は生命力を示す事例が多い。季節にもよるが四季の大半が原生林から視覚、爽やかな匂いと樹木、水源、他の動植物との共生、これが②環境；自然環境と庭や公園、家屋など人間の活動に関わる環境になくはならないものと言えます。したがって、③施工は緑と環境を配慮して行わねばならないこととなります。環境に悪影響を及ぼさないように、施工は法令・条例において制約があります。排気ガス制限車両、廃棄物処理などここに①緑、②環境、③施工の関連を切り離すことができません。このため、人間活動に④倫理が必要不可欠になってきます。

環境意識として、ゴミや廃棄物放置、たばこのポイ捨てなどしてはならない倫理感を定着させなくてはなりません。施工規準を満たさない手抜き工事も倫理に反します。時折、地震災害で発覚した橋梁やビルのコンクリート構造物の中から空き缶や仮設木材をみることがあります。これは倫理観の著しい欠如である。

ここで環境を配慮した施工として、緑化工法は幾つか実用化しています(協会、NETIS 登録)。従って、①緑②環境③施工の関係は現実として切り離せないし、ここに④倫理に支配されています。

倫理教育は幼いころ土曜日曜学校でお寺や教会での道德教育があり、小中学校でも道德教育が行われ、高等学校では倫理が授業科目にありました。高校では哲学的な授業もあり、ソクラテスやプラトン、デカルトも出てきました。大半が理解しづらい印象が残っています。大学ではこれから社会人としてどのような倫理教育がふさわしいのだろうか。今までの道德・倫理とはどのように異なるのだろうか。ゴミ放置やたばこのポイ捨てしないレベルは小

中高生でも容易に理解できます。大学では当たり前のことを念押ししてするような教育ではありません。

大学では職業倫理とする教育であり、これはサイエンス(科学)教育と考えます。科学には自然科学や社会科学がある。ここに自然科学的知識と法令に基づく社会学的知識から災いとなる行為を予測して行動様式を位置づけ、悪影響となる行為をしてはならないこと、またこれを防ぐことではないかと考える。

人類は時代とともに豊かさを追求して幸福感を高めていく傾向にあります。このため、地球にある資源を用いて生産性を高めます。かつての産業革命から急速に資源を使い果たすところまで続いているようです。石炭・石油などの資源は有限であり、いずれ枯渇し、水や空気のような循環系とは異なり、燃料資源の消費による大気・水質汚染、地球の温暖化は、加速するばかりである。

PM2.5の大气被害が隣国で著しく、日本にも悪影響を及ぼしている。

直ちに生産物製造を止めれば、防げることがなかなかできないのは何故だろうか？

隣国の条例に基づき、製造許可を得た工場をすぐに閉鎖できないからであろう。工場建設の資本を捨て、就労人員の生活の場を閉ざしてしまうことは容易ではない。大气被害は質の悪い安価な石炭を燃やすからだとか、製造過程を見直せば汚染されない効果的な施策があるのかどうか分からない状態と考えられる。

数年前からライフサイクルアセスメントが構築され、製造からリサイクル、リユースなど、また製造をやめるときはその廃棄まで一連の過程を把握しておかねばならない。この期間は何時から何時までと。実際、世界の脱原発の先が全く見えないまま、自然エネルギーの活用が出始めてきた。太陽光発電も機材に寿命があり、この廃棄時期にどれほどのリサイクルと廃棄があるのか量的に予測して示されているのだろうか？

ここでの講義では、上記の話題をとくに取り上げるつもりはない。事例として紹介することもあるが、主としては土木施工事例での科学的解決法の倫理教育についてテキストを用いて行います。

事前を知っておけば助かったことは沢山あります。一方、知らなかったので失敗御免なさいで通せないことも多々あります。テキストではまず専門用語の理解を欠かすことができない。

ここに土木施工、地盤工学、地質学、化学などの用語が数多くテキストには出てくる。

1 ページの中に 3 つ知らない用語がでてくると文章を理解できず、1 つでも知らない用語があれば徹底して理解しなければならない。

また昨今研究職の倫理観が問われている。研究の盗用、改ざん、ねつ造が行われるのは大いなる倫理観の欠如で、わずかなゴミ放棄やたばこのポイ捨てとは次元が異なることは言うまでもありません。レポートにはオリジナルと既往の研究引用が含まれ、引用は正確に記載することです。

2.身近な環境を考える

第1回目 の 授業で皆様に質問します。

上記に記載していないこと

①環境は多様ですが 豊かな環境とは？ 貧しい環境とは？
豊かな緑とは？ →必要ないでしょうか。

②豊かとは貧しいとは
豊かな要素とは？

③授業で何度も出てくる 「貧困の定義」

日本での貧困層とは

→ 国家の平均年収の 1/2 (250 万円) 以下が対象

世界での貧困 3 要素とは→

医療

教育

食糧

が満たされない。

3.緑の役割 貧困 3 要素との関係に着目

緑地環境学類の学術体系を自己なりに 構築して行きましょう。

以 上